

株式会社 都市環境 環境経営レポート

対象期間（2023年6月～2024年5月）編



2024年 9月1日発行（2023年度版）

も く じ

1	組織の概要	1
2	認証・登録対象範囲	1
3	情報開示項目	1 ～ 3
4	環境経営方針	4
5	環境経営目標とその実績及び評価	5 ～ 10
6	環境経営計画及びその取組結果とその評価	11 ～ 13
7	環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	14 ～ 15
8	代表者による全体評価と見直し・指示の結果	16
9	次年度の環境経営目標	17
10	次年度の環境経営計画	18 ～ 20

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者

株式会社都市環境 代表取締役 斎藤 高照

(2) 所在地

本社・資材置場 〒957-0062 新潟県 新発田市 富塚町 2丁目1002番地

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

電話 0254-22-6337 FAX 0254-23-6308

環境管理責任者 常務取締役 斎藤 剛寛 E-mail saito-t@toshikankyo.com

事務局担当者 専務取締役 小林 勝彦 E-mail kobayashi@toshikankyo.com

(4) 事業内容

ア 浄化槽清掃業、イ 浄化槽保守点検業、ウ 産業廃棄物収集運搬業、エ 一般廃棄物収集運搬業、オ 一般建設業(土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、解体、電気工事業)

カ 下水道処理施設管理業、キ 工業薬品の販売、ク 建築物貯水槽清掃業、

ケ 建築物排水管清掃業、コ 道路側溝等清掃業務、サ 無人航空機による農薬散布業務

※ 建設業の事業活動において、2023年度より新たに【超高压水による研り業務】を開始。

2. 認証・登録対象範囲

株式会社都市環境の全組織、全活動

3. 情報開示項目

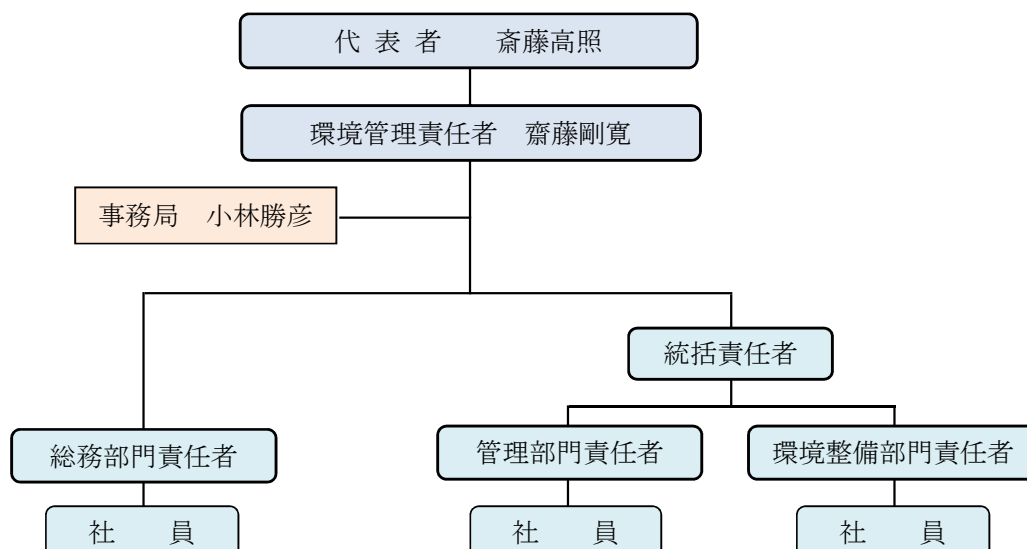
(1) 法人設立年月日：1983年9月28日(創業 1958年)

(2) 資本金：1,500 万円

(3) 事業規模

活動規模	単位	2021年度	2022年度	2023年度
従業員数	人	64	67	70
売上高	百万円	697	712	746
本社床面積	m ²	283.5	283.5	283.5

(4) EA21 実施体制図



(5) 許可の内容

① 産業廃棄物収集運搬業

【新潟県】

許可番号	01501034436		
許可年月日～有効期限	2022年10月17日～2028年9月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管を除く。） 廃プラスチック類、木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び 陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ゴムくず、 金属くず（以上、水銀使用製品産業廃棄物を含み、水銀含有 ばいじん等を除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台 コンテナ車 4t 1台 強力吸引車 6t 1台 バキューム車 3t 2台 強力吸引車 5t 1台 塵芥車 2t 1台 強力吸引車 4t 1台 トラッククレーン車 2t 1台 トラック車 8t 1台 ダンプトラック車 2t 1台 トラック車 5t 1台 普通貨物車 1t 2台 トラック車 3t 1台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2023 年度	2,558.6 t	

【山形県】

許可番号	0609034436		
許可年月日～有効期限	2022年5月31日～2028年5月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管なし。） 汚泥（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台 強力吸引車 4t 1台 強力吸引車 6t 1台 トラッククレーン車 2t 1台 強力吸引車 5t 1台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2023 年度	0.0 t	

② 浄化槽保守点検業

【新潟県】

登録番号	(登) 60 第 203 号
許可年月日～有効期限	2021年1月1日～2025年12月31日
営業区域	新発田市、聖籠町

【新潟市】

登録番号	(登) 15 第 1 号
許可年月日～有効期限	2023年4月18日～2028年4月17日

③ 浄化槽清掃業【新発田市】

許可番号	環 第 1481号-2
許可年月日～有効期限	2024年12月1日～2027年11月30日

④ 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環 第 1933 号 - 2		
許可年月日～有効期限	2024年4月1日～2026年3月31日		
取扱廃棄物の種類	浄化槽汚泥 収集・運搬		
施設等の状況	バキューム車 3t 6台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2023 年度	7,439.2 m ³	

⑤ 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環 第 800 号 - 2		
許可年月日～有効期限	2023年8月1日～2025年7月31日		
事業計画の概要	一般廃棄物の収集運搬		
取扱廃棄物の種類	事業活動により生じる一般廃棄物及び一般家庭から一時的に大量に出るごみ 収集・運搬(積替え・保管を含む。)		
施設等の状況	積替え・保管面積 37.6 m ² 保管上限量 72.4 m ³ コンテナ車 4t 1台 トラッククレーン車 2t 1台 ダンプトラック車 2t 1台 塵芥車 2t 1台		
運搬実績(年度は6月～翌年5月)	2023 年度	13.9 t	

⑥ 一般建設業【新潟県】

許可番号	第 2 1 6 3 1 号		
許可年月日～有効期限	2022年1月17日～2026年1月16日		
建設業の種類	土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、電気、解体工事業		
工事实績(年度は6月～翌年5月)	2023 年度	116 件	

注) 1. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。

4. 環境経営方針

株式会社都市環境 環境経営方針

＜環境理念＞

株式会社都市環境は、飯豊連峰を源とする清流加治川の恩恵を受けた緑豊かなこの地で、『人とより良い環境の共生を求めて』をモットーに、浄化槽保守点検業務、公共下水道関連業務、廃棄物収集運搬業務などの環境関連業務を営んでおります。企業としての活動が二酸化炭素の排出などにより地域及び地球環境に一定の影響を与えていること及び当社の事業活動を踏まえ、温暖化の防止や水環境の保全に積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指して以下の項目を継続的に取り組んでいくことを誓約します。

＜行動指針＞

1. 次の事項について環境経営目標・環境経営計画を定め、活動を行うとともに環境経営の継続的な改善に努めます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
電力の消費や業務車両の燃料消費などに伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 廃棄物排出量の削減
廃棄物排出量の抑制に努めます。
 - ③ 総排水量の削減
水使用量の節約に努めます。
 - ④ 化学物質の適正使用及び管理
化学物質の適正使用及び管理に努めます。
 - ⑤ 業務を通じた環境活動の推進
受託廃棄物のリサイクル率の向上や水質浄化業務を推進します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 本環境経営方針は、全ての従業員に周知します。

制定日：2014年 6月 1日

改定日：2019年 8月 5日

代表取締役 齋藤高昭

5. 環境経営目標とその実績及び評価

(1) 環境経営目標

- ・ 電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2021年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kwhを使用。
- ・ 各年度の目標値の%は、対基準年実績値比です。

項 目				単 位	基準年実績 (2022年度)	目 標 値			
						(△ 向上 ・ ▽ 削減)			
					2023年度	2024年度	2025年度		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減			kwh	48,012	48,012	48,012	48,012	
				削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
		ガソリン車両		km/ℓ	13.08	13.15	13.15	13.15	
				向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%	
		全 体		km/ℓ	(4.01)	(4.03)	(4.03)	(4.03)	
				向上率					
		バキューム車		km/ℓ	5.77	5.80	5.80	5.80	
				向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%	
		強力吸引車		km/ℓ	2.15	2.16	2.16	2.16	
				向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%	
		高圧洗浄車		km/ℓ	2.94	2.95	2.95	2.95	
				向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%	
		他 作業車		km/ℓ	6.23	6.26	6.26	6.26	
				向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%	
二酸化炭素総排出量				kg-CO2	299,361	-	-	-	
水道使用量の削減			全 体		m ³	(560.5)	(560.5)	(560.5)	(560.5)
					削減率				
			事 務 所		m ³	258.3	258.3	258.3	258.3
					削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%
			作 業 用		m ³	302.2	302.2	302.2	302.2
					削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進				再資源化率	61.2	61.7	62.2	62.7	
				%		△ 0.5%	△ 1.0%	△ 1.5%	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進				再資源化率	61.2	61.7	62.2	62.7	
				%		△ 0.5%	△ 1.0%	△ 1.5%	
可燃一般廃棄物の排出量の削減				kg	1,483	1,483	1,483	1,483	
				削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
資格取得の推進				取得者数(人)	5	3	3	3	

- 注) 1. 化学物質は自らの判断で削減できないため、目標設定はせず、適正使用及び管理に努める。
2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。
3. 二酸化炭素総排出量は灯油・LPGを含む。
4. 建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、自社排出産業廃棄物として再資源化に取り組む。
5. 建設現場については目標設定せず、環境に配慮した工事の施工に努める。
6. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に努める。
7. 基準実績値とは、2022年度(6月～翌年5月)である。

(2) 環境経営目標と実績 (対象期間2023年6月～2024年5月)

- ・電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2021年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kwhを使用。
- ・目標値の％は、対基準年実績値比、実績値の％は、対目標値比です。

項 目			単 位	基準年実績値 (2022年度)	目標値：△・▽: 対基準実績値の向上・削減 実績値：△・▽: 向上・削減 ▲・▼: 増加・低下 実績評価：○ 目標達成 × 目標未達成				
					目標値	実績値	実績評価		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kwh	48,012	48,012	48,184	×		
			削減率		▽ 0.0%	▲ 0.4%			
	燃費向上	ガソリン車両	km/ℓ	13.08	13.15	13.01	×		
			向上率		△ 0.5%	▼ 1.1%			
			走行距離 km	417,188	-	442,701	-		
			燃料使用量 ℓ	31,892	-	34,035			
		全 体	km/ℓ	(4.01)	(4.03)	4.08	-		
			向上率		△ 1.4%				
			走行距離 km	308,735	-	328,247			
			燃料使用量 ℓ	77,092	-	80,361			
			バキューム車	km/ℓ	5.77	5.80		6.01	○
				向上率		△ 0.5%		△ 3.6%	
		走行距離 km		118,232	-	121,023	-		
		燃料使用量 ℓ		20,488	-	20,136			
	強力吸引車	km/ℓ	2.15	2.16	1.94	×			
		向上率		△ 0.5%	▼ 10.2%				
		走行距離 km	67,098	-	59,746	-			
	燃料使用量 ℓ	31,260	-	30,806					
	高压洗浄車	km/ℓ	2.94	2.95	3.51	○			
		向上率		△ 0.5%	△ 18.9%				
		走行距離 km	30,748	-	36,252	-			
		燃料使用量 ℓ	10,471	-	10,319				
	他 作業車	km/ℓ	6.23	6.26	5.82	×			
		向上率		△ 0.5%	▼ 7.0%				
		走行距離 km	92,657	-	111,226	-			
		燃料使用量 ℓ	14,873	-	19,100				
	二酸化炭素総排出量			kg-CO ₂	299,361	-	313,089	-	
						▲ 4.6%			
水道使用量の削減		全 体	m ³	(560.5)	(560.5)	(530.1)	-		
			削減率		▽ 5.4%				
		事 務 所	m ³	258.3	258.3	254.5	○		
			削減率		▽ 0.0%	▽ 1.5%			
		作 業 用	m ³	302.2	302.2	275.6	○		
			削減率		▽ 0.0%	▽ 8.8%			
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進			再資源化率	61.2	61.7	48.1	×		
			%		△ 0.5%	▼ 13.6%			
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進			再資源化率	61.2	61.7	52.3	×		
			%		△ 0.5%	▼ 9.4%			
可燃一般廃棄物の排出量の削減			kg	1,483	1,483	1,445	○		
			削減率		▽ 0.0%	▽ 2.6%			
資格取得の推進			取得者数(人)	5	3	3	○		

(3) 環境経営目標と実績の評価

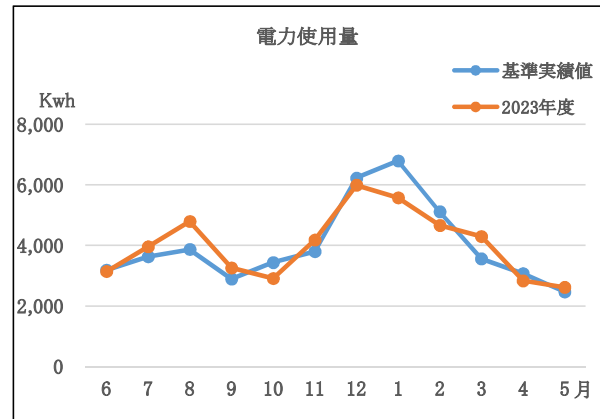
対象期間(2023年6月から2024年5月)の環境経営目標の実績は、以下のとおりです。
なお、以降記述する基準年実績値とは、2022年度の実績値を示す。

1) 電力使用量の削減

環境経営目標は、基準年実績値と同値とし48,012kwh以下と設定した。

実績では48,012kwhで対目標値比0.4%の増加の48,184kwhと僅かではあったが、未達成となった。

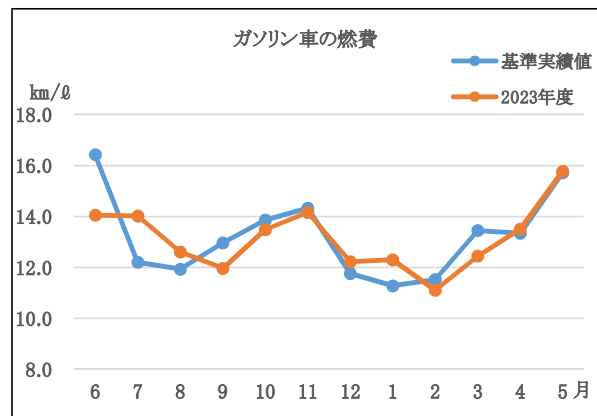
右のグラフからは、夏季(7月～8月)の冷房の稼働増が大きな要因と推察できる。
今後の照明機器、空調機器の更新交換の成果に期待する。



2) ガソリン車両の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値を基に13.08 km/ℓの0.5%向上で13.15 km/ℓ以上と設定したが、実績は、対目標値比1.1%低下の13.01 km/ℓと目標を達成することができなかった。

また、走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で25,513 km(6.1%)の増加、燃料使用量でも2,143 ℓ(6.7%)の増加となっていることから、二酸化炭素排出量についても、増加の要因となった。

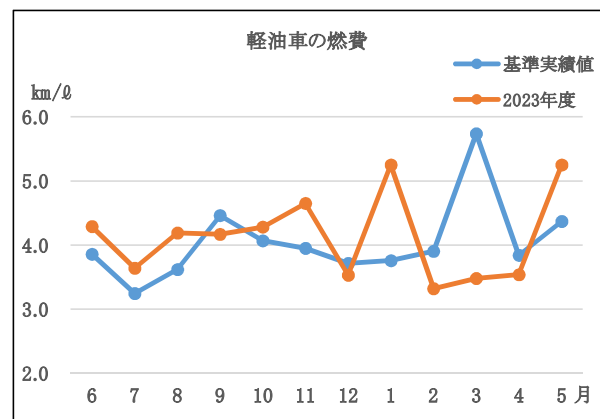


3) 軽油車両の燃費向上

軽油車両全体についての燃費向上は、環境経営目標に設定していないが、基準年実績値としては、4.00 km/ℓとなっている。実績は、対目標値比1.4%向上の4.08 km/ℓであった。

詳細については、後記に各車種毎で記しますが、強力吸引車と他作業車で燃費が低下したなか、高圧洗浄車の燃費向上が軽油車両全体の燃費向上に影響した結果となった。

走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で19,512 km(6.3%)、燃料使用量では3,119 ℓ(4.0%)で、共に増加となっている。

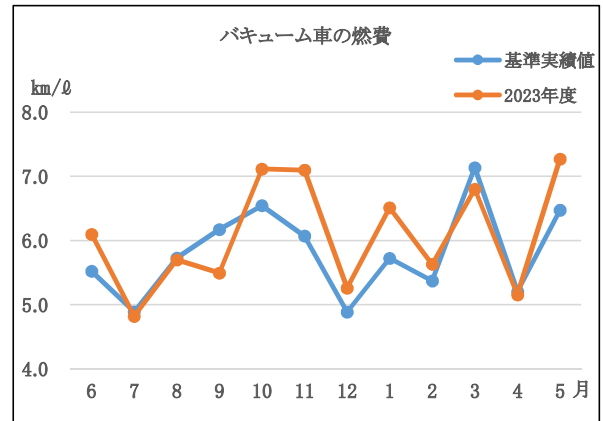


環境経営目標では、4種類の各車種毎に目標を設定し其々の結果については、次頁のとおりです。

3) -1 バキューム車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値5.77km/ℓの0.5%向上で5.80km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比3.6%向上の6.01km/ℓと目標を達成した。

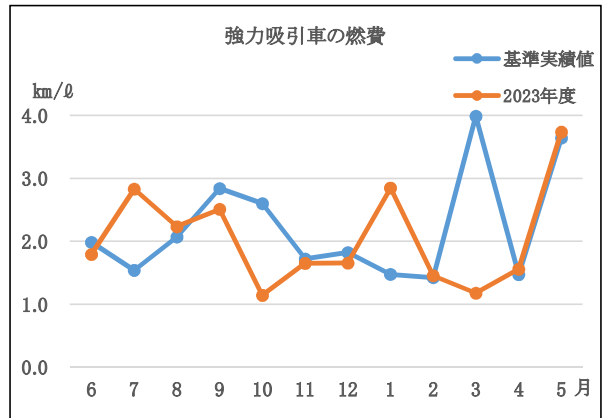
走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離は2,791km(2.4%)の増加に対し、燃料使用量では352ℓ(1.7%)の減少となっている。



3) -2 強力吸引車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値2.15km/ℓの0.5%向上で2.16km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比10.2%低下の1.94km/ℓと目標を達成できなかった。

走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で7,352km(11.0%)、燃料使用量では454ℓ(1.5%)で共に減少となつた、燃費向上には繋がらなかった。

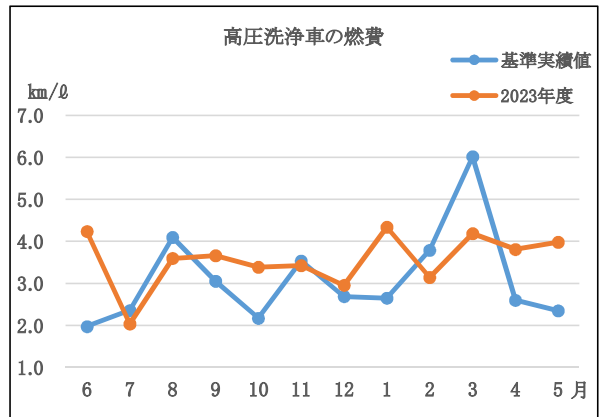


3) -3 高圧洗浄車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値2.94km/ℓの0.5%向上で2.95km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比18.9%向上の3.51km/ℓと目標を達成した。

走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で5,504km(17.9%)の増加に対し、燃料使用量では152ℓ(1.5%)の減少となっている。

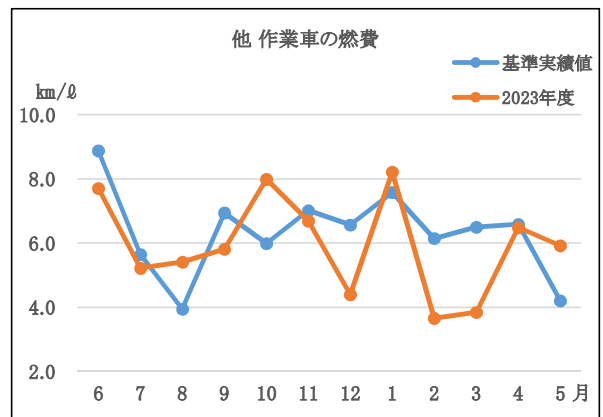
軽油車両全体の燃費向上に、貢献した結果となった。



3) -4 他 作業車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値6.23km/ℓの0.5%向上で6.26km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比7.0%低下の5.82km/ℓと目標を達成できなかった。

走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で18,569km(20.0%)、燃料使用量では4,227ℓ(28.4%)と共に増加となり、燃費向上には繋がらなかった。



前頁の 3) - 1 から 3) - 3 の車両については、作業時もエンジンを動力源とするために作業条件に影響を受けるため、燃費の向上、二酸化炭素の排出量の削減に対する取組み方に苦慮している。

4) 二酸化炭素総排出量

(単位: kg)

環境経営目標に設定はしていないが、右表に項目毎の実績を示す。

LPGを除く、電力・ガソリン・軽油・灯油が増加し、全体的には4.6%増加の313,089 kg-CO₂であった。

総排出量の90%超を占める作業用車両の燃料であるガソリンと軽油で、また、暖房用の灯油での使用量の増加が、結果的に総排出量の増加に繋がった。

二酸化炭素 排出由来項目	基 準 実績値	2023年度	全体比	(▲増 ▼減)
電 力	23,430	23,514	7.5 %	▲ 0.4 %
ガソリン	73,989	78,961	25.2 %	▲ 6.7 %
軽 油	198,896	207,331	66.2 %	▲ 4.2 %
灯 油	2,642	2,963	0.9 %	▲ 12.2 %
L P G	404	320	0.1 %	▽ 20.9 %
総排出量	299,361	313,089		▲ 4.6 %

5) 水道使用量の削減

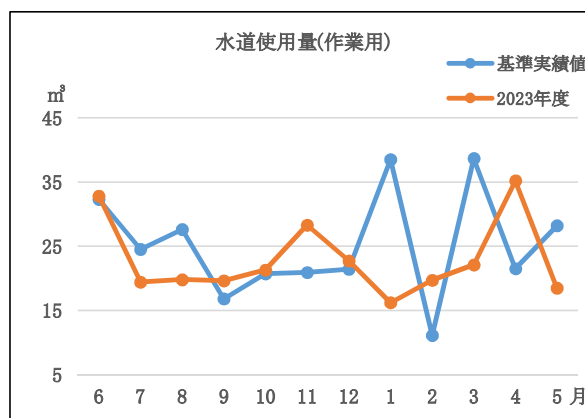
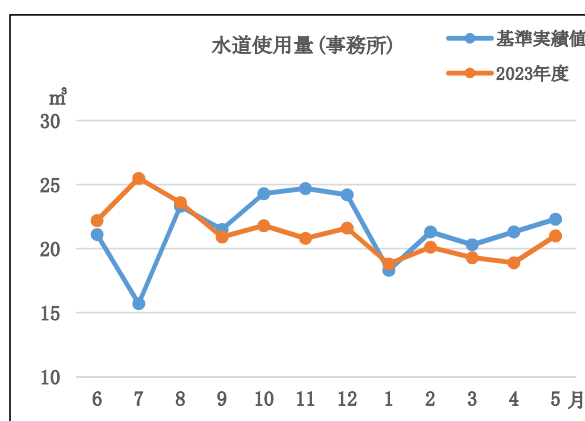
環境経営目標は、基準年実績値と同値とし事務所は258.3m³以下、作業用を302.2m³以下と設定した。

実績は、事務所で対目標値比 1.5%削減の254.5 m³、作業用では対目標値比 8.8%削減の275.6 m³と目標を達成した。

事務所での内勤者の増加によって、削減が厳しい状況と思われたなか、日々の努力が結果として表れた。

作業用では、地下水揚水ポンプを活用することによる水道使用量の削減に、引き続き取り組む。

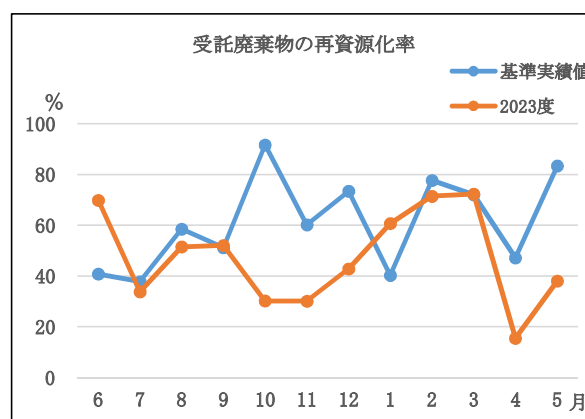
全体では、基準年実績値と比較して5.4%削減の530.1 m³となった。



6) 受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進

受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の環境経営目標は、基準実績値の再資源化率61.2%に対し、0.5%向上の61.7%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では13.6%低下の48.1%で目標を達成できなかった。

中間処理業者に対し、当社の取組について理解を得られるよう、引き続き努力する。

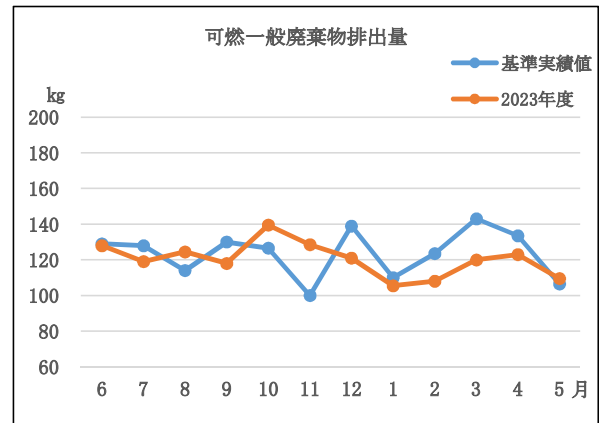


7) 可燃一般廃棄物の排出量の削減

可燃一般廃棄物の排出量に関する環境経営目標は、基準年実績値と同値とし1,483kgと設定した。

実績は、対目標値比 2.6%削減の1,445kgで目標を達成することができた。

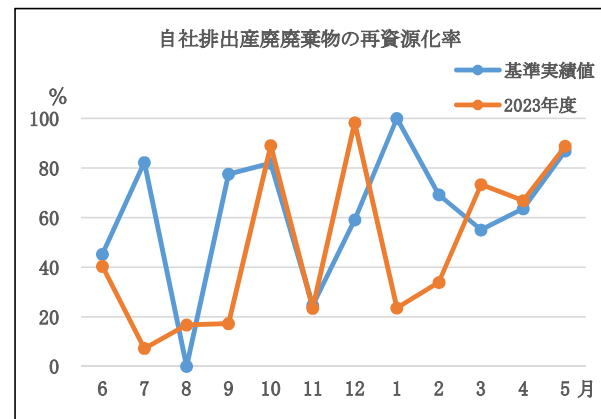
分別等、日々の取り組みの成果である。



8) 自社排出産業廃棄物の再資源化の促進

自社排出産業廃棄物の再資源化の環境経営目標は、基準年実績値の再資源化率 61.2% に対し、0.5% 向上の 61.7% の再資源化を図ることを目標と設定した。実績では、作業現場での分別等の努力もしたが、9.4% 低下の 52.3% で目標を達成ができなかった。

受託産業廃棄物と同様に中間処理業者に対し、理解を得られるように引き続き努力します。



9) 資格取得の推進

環境経営目標に業務上で必要と認められる資格等について、3人の資格取得を目標とした。

結果として2資格で計3人が取得し、目標を達成することができた。

また、3つの技能講習、2つの特別教育に計9名が受講し、修練に努めた。

今後も資格取得を尚一層、推進します。

10) 建設現場における環境への配慮

環境経営目標には未設定ですが、常に環境に配慮した工事の実施に努め、今後も継続して取り組みます。

11) グリーン購入の推進

環境経営目標には未設定ですが、積極的な購入を今後も継続して取り組みます。

6. 環境経営計画及びその取組結果とその評価

環境経営計画を下表に示しました。環境経営計画の実施状況を年4回、5段階評価により点検を行っており、その評価点の平均を下表に示しました。

評価点の低い活動項目については、更に活動の徹底に努めます。

【総務部門】

項目	環境経営目標	環境経営計画	点検結果	担当者コメント (2024.6)	環境管理事務局コメント (2024.6)
活動の管理		エコ安全ドライブの周知	5.0	安全運転管理者講習の資料を基に社内研修を実施した。 7月13日受講 正・副 4名受講	安全運転・省エネ運転への周知、実行に努めて欲しい。
		運転記録簿の管理	4.0		
		安全運転教育の実施	5.0		
		安全運転管理者講習会の受講	5.0		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	空調設定温度 (夏季/冬季 28℃以上/20℃以下)	4.8	こまめな照明の消灯と不在時の空調停止を心掛けた。	社屋の空調機器について、新年度に更新取替を計画。
		外出時などパソコンのモニターの電源OFF	5.0		
		昼休み、残業時、外出時など不要照明のこまめな消灯	4.8		
		照明器具見直し (取り外し、人感型化、高効率化、LED化等)	5.0		
	灯油使用量の削減	灯油暖房温度設定20℃以下	5.0	必要最小限の使用に努め、こまめな温度管理を心掛けた。	無理の無い範囲での削減に努めてもらいたい。
	ガス使用量の削減	ガス湯沸し器の使用節約	5.0	必要最小限の使用を心掛けた。	
水道使用量の削減		蛇口付近への節水シール貼付	5.0	節水を心掛け、削減することができた。	常に意識して削減に取り組んでいた。
		手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
		水漏れがないことを定期的に確認	5.0		
一般廃棄物(可燃物)の排出量の削減と再資源化の促進		両面コピーの徹底 (片面コピー済の裏面使用)	5.0	社内連絡用紙等に活用した。	使用済みのコピー用紙を適時各部署より回収し、裏面を再使用した。
		その他紙の分別再資源化の徹底	5.0	紙資源の分別に努めた。	
		分別による排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・古紙・ダンボール・ペットボトル)	5.0	再資源化のため、分別を徹底。	適正に行っていた。
グリーン購入の推進		グリーン商品の積極的な購入	5.0	購入を心掛けた。	積極的に取り組んでいた。
平 均			4.9		

【管理部門】

項目	環境経営目標		環境経営計画	点検結果	担当者コメント (2024.6)	環境管理事務局コメント (2024.6)
二酸化炭素排出量の削減	ガソリン車両及び軽油車両の燃費向上	エコ安全ドライブの実践	急発進・急加速を避ける。	5.0	エコ運転・安全運転に積極的に取り組んだが、燃費向上に至らなかった。。	一部の車両では目標は達成できなかったが、事故の発生が無かったことが一番の成果。今後もゆとりを持った運転を心掛けてもらいたい。
			ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
			シフトアップは早めに。	5.0		
			シフトダウンは遅めにする。			
			一定速度の走行をする。	5.0		
			経済速度での走行をする。	5.0		
			不要なアイドリング運転の防止	5.0		
		過度な空調の使い方をしない。	5.0			
	日常管理	タイヤ圧を適正に保つ	5.0	各自での担当車両の始業前点検を励行した。	日常的な点検整備による早期の発見が、業務への支障・負担を軽減する第一歩。	
		エンジンオイルの適正な管理	5.0			
作業管理	車両の走行は最短経路を選択	5.0	各現場に対して効率的な作業を心掛けた。	各自の事前の段取りで、効率的な業務遂行を目指し、取組んでいた。		
	運転記録簿の記帳	4.0				
水道使用量の削減			蛇口付近への節水シール貼付	5.0	作業現場ごとに作業用水（上水道or地下水）を選定し、使い分けることによる上水道の使用量削減を推進した。	現場ごとに作業用水を選定し、地下揚水ポンプ（地下水）を活用することで、上水道の使用量削減に努めていた。
			手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
			洗車ホースへのストッパーの設置と使用	5.0		
			水漏れがないことを定期的に確認	5.0		
			積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	5.0		
廃棄物（一般・産廃）の排出量の削減と再資源化の促進			分別し、排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・廃プラ・ダンボール・ペットボトル)	4.0	再資源化のため、分別を徹底。	適正に行っていた。
化学物質の適正使用及び管理			購入のチェックと毎月末の棚卸	5.0	月毎に購入量と在庫をチェック。	適正に行っていた。
無人航空機による農薬散布業務における環境への配慮			計画的な散布と農薬の適正使用により、土壌や水質の保全に努める	5.0	計画書を作成し、農薬の適正使用を遵守した。	適正に行っていた。
建設現場における環境への配慮			省エネ運転、低騒音、低振動型建設機械の使用に努める。	5.0	省エネ運転に努め、環境配慮型機械の使用を徹底した。	適正に行っていた。
			建設発生土の場内再利用、再生土の利用に努める。	5.0	発生土の再利用に努めた。	適正に行っていた。
			廃棄物は分別し、排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・廃プラ・陶器・ガラス・ダンボール・木くず・紙くず・石膏ボード)	4.8	分別に努めた。	適正に行っていた。
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進		5.0	資格取得を積極的に推進した。	積極的に推進していた。	
平 均				4.9		

【環境整備部門】

項目	環境経営目標		環境経営計画	点検結果	担当者コメント (2024.6)	環境管理事務局コメント (2024.6)
二酸化炭素排出量の削減	ガソリン車両及び軽油車両の燃費向上	エコ安全ドライブの実践	急発進・急加速を避ける。	5.0	エコ運転を心掛けているが、現場も多様化して燃費向上が厳しい状況になってきた。	車種によっては、目標達成が厳しい車両もあるが、前向きに取り組んでいた。
			ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
			シフトアップは早めに。	5.0		
			シフトダウンは遅めにする。			
			一定速度の走行をする。	5.0		
			経済速度での走行をする。	5.0		
			不要なアイドリング運転の防止	4.0		
		過度な空調の使い方をしない。	5.0			
	日常管理	タイヤ圧を適正に保つ	5.0	会社からの出発前に、点検を行ってから出発した。	大型車両等が多いので、一つの不具合が重大事故に繋がるおそれもあるので、その点も周知を願う。	
		エンジンオイルの適正な管理	5.0			
ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。		5.0				
作業管理	車両の走行は最短経路を選択	5.0	作業現場について、予め従事者へ周知することで、効率的な経路の選択ができた。	従事者への事前の周知、余裕のある準備を実践していた。		
	運転記録簿の記帳	4.0				
水道使用量の削減			蛇口付近への節水シール貼付	5.0	作業用用水として、地下水揚水ポンプ(地下水)を使用することにより、上水道の使用量削減に努めた。	作業用用水として、地下揚水ポンプ(地下水)の使用が日常化し、上水道の使用量を削減に繋がった。
			手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
			洗車ホースへのストッパーの設置と使用	5.0		
			水漏れがないことを定期的に確認	5.0		
			積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	5.0		
受託産業廃棄物 (有機汚泥) の再資源化の促進			排出事業者に対して処理委託先について、再資源化を行う業者を推奨することに努める。	4.8	中間処理業者へ継続して再資源化への理解を求めたが、なかなか厳しい。	中間処理業者(他業者)に再資源化について、理解を求めることは厳しいと思われるが、根気強く継続している。
廃棄物の排出量の削減と再資源化の促進			分別による排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・廃プラ・ダンボール・木くず)	4.5	僅かだったが、一部に分別の不備があった。	適正、確実な分別を行ってもらいたい。
資格取得の推進			積極的な資格取得の推進	4.5	資格取得を積極的に勧めた。	積極的に取り組んで欲しい。
平 均				4.8		

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況を自ら点検した結果、下表のとおり全て遵守していることを確認しました。
なお、法令違反等について行政当局からの指摘や指導、住民等からの苦情や訴訟もありません。

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
家電リサイクル法	再商品化する者に適切に引渡し、料金の支払に応じる。	適合
小型家電リサイクル法	分別して排出し、認定業者等確実に運搬・再資源化できる者に引き渡す。	適合
建設業法	営業所を管轄する知事に許可申請を行う。	適合
建設リサイクル法	建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用するよう努める。	適合
自動車リサイクル法	自動車の所有者は、使用済み自動車を引取業者に引き渡す。 使用済み自動車のリサイクルに要する費用を負担する。	適合
水質汚濁防止法	水質事故時は、応急措置を実施し事故の状況及び講じた措置の概要を知事に届け出る。	適合
浄化槽法	設置または構造等の変更をしようとするときは届出る。 保守点検、清掃の技術上の基準に従って行う。 年1回以上水質に関する検査を受ける。(法第11条検査) 業を行う区域の知事(政令市長)に届出る。(浄化槽保守点検業) 業を行う区域の市町村長の許可を受ける。(浄化槽清掃業)	適合
航空法	無人航空機の登録するとともに登録番号を表示する。 飛行禁止空域は、国土交通大臣の許可を受ける。 飛行の方法は所轄する空港事務所または地方航空局に申請する。 無人航空機飛行マニュアルを遵守する。	適合
農薬取締法	農薬の使用基準を遵守する。 安全かつ適正な使用に関する知識と理解を深めるように努める。 無人航空機による農薬の空中散布に係る安全ガイドラインの遵守	適合
毒物及び劇物取締法	容器に「医薬用外毒物・劇物」の表示 飛散、漏えいしない専用の設備で、鍵のかかる場所に保管する。 営業所を管轄する保健所に登録する。(毒物劇物一般販売業)	適合
PRTR法	指定化学物質等の性状及び取扱いに関する情報(安全データシート)の提供(受領)。	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	1) 収集運搬または処理の委託 産業廃棄物の収集運搬または処理については許可業者に委託。 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 管理票は産業廃棄物の種類ごとに交付する。 管理票の保存期間(排出事業者)A票、B2票、D票、E票 : 5年保存する。 交付後90日以内に収運・中間処分の回付がない又は180日以内に最終処分終了の管理票送付がないときは報告する。 前年の管理票交付等状況を6月末までに報告する。 虚偽の記載をして管理票を交付しない。	適合
	2) 収集運搬業の許可 知事の許可を受ける 水銀使用製品産業廃棄物の収集運搬を含む。	
	3) 収集運搬の受託 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 管理票は、産業廃棄物の種類ごとに交付を受ける。 管理票の保存期間(収集運搬業者)B1票、C2票 : 5年保存する。 運搬後180日以内に最終処分終了の管理票送付がないときは報告する。 前年の収集運搬実績を6月末までに報告する。(山形県)	

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
労働安全衛生法	業務に起因する危険性又は有毒性等を調査し、危険又は健康障害を防止するための措置を講ずるよう努める。	適合
	化学物質の取扱いと現場作業に伴うリスクアセスメントの実施	
	雇入れ時に従事する業務に関する安全または衛生の教育を行う。	
	健康診断の実施	
騒音規制法	特定建設作業の届出(指定地域内)	適合
	騒音規制基準の遵守(指定地域内)	
振動規制法	特定建設作業の届出(指定地域内)	適合
	振動規制基準の遵守(指定地域内)	
大気汚染防止法	解体工事の元請業者は、特定工事に該当するかを調査し、その結果を発注者に説明すること。	適合
石綿障害予防規則	事業者は、建築物の解体等の作業を行うときは、石綿等の使用の有無を調査しなければならない。	適合
フロン排出抑制法	第1種特定製品の定期点検・記録(7.5kw未満につき簡易点検)を実施する。	適合
	第1種特定製品の廃棄時の引取り証明書の交付 (廃棄物処理業者への引渡し時)	
オフロード法	特定特殊自動車は基準適合の表示等がなければ使用してはならない。	適合
新潟県(市)浄化槽保守点検業者の登録に関する 条例	知事(政令市長)の登録を受ける	適合
	浄化槽管理士は登録有効期間内に1回、研修を受講する。	
	営業所ごとに条例で定める標識を掲示する。	
	営業所ごとに条例で定める帳簿を備え保存する。	
建築物における衛生的環境の確保に関する法律	知事の登録を受ける	適合
	清掃作業の基準に従って行う。	
	前年の実績を6月末までに報告する。	
新潟県産業廃棄物の適正な処理の促進に関する条例	産廃処分委託業者の施設稼働状況の確認・記録する。	適合
	不適正処分時の搬入停止・報告等をする。	
新潟県生活環境の保全等に関する条例	特定施設の設置届(指定地域内)、特定建設作業の騒音規制基準の遵守。	適合
新発田地域広域事務組合火災予防条例	指定数量未満の危険物の貯蔵及び取扱いの技術上の基準の遵守	適合
	貯蔵場所では、危険物が漏れ、あふれ、飛散しないよう措置をし、整理・清掃し、不要物を置かない。	

8. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

2023年度の環境経営の取り組みについて、代表者による全体の評価及びこれを踏まえた見直しに係る指示事項は以下のとおりです。

	点検項目	改定の必要性	指示の内容
見直しに係る指示事項	環境経営方針	☒ 有 ☐ 無	行動指針に「建設現場における環境配慮」を追記すること。
	環境経営目標	☐ 有 ☒ 無	現行の環境経営目標を維持し、取組むこと。
	環境経営計画	☒ 有 ☐ 無	「超高圧水による研り業務」における環境配慮を盛り込むこと。
	環境経営システム	☐ 有 ☒ 無	環境経営システムマニュアル(初版)の運用に努めること。
	環境経営実施体制	☐ 有 ☒ 無	現行の実施体制を維持し、更に全員参加を進めること。
代表者コメント	<u>全体の評価</u> ・新たに3箇年の環境経営目標を設定し、新規業務の展開や業務体系の変化など、厳しい状況の中で取り組んだ今年度であったが、現行の取組みを維持しながら目標達成に向けた努力を評価したい。 【未達成となった項目について】 ○ 電力使用量の削減 照明器具と空調機器の更新取替えて、今後の使用量の推移に注視したい。 ○ ガソリン、軽油車両の燃費向上 業務内容、作業条件によって影響を受けると思われるが、目標達成に向け努力を願う。 ○ 受託・自社排出産業廃棄物の再資源化 中間処理業者に対し、当社の取組について理解を得られるよう、引続き努力を願う。 また、中間処理業者の新規開拓も視野に入れた活動も、必要となるのか。 <u>指示事項</u> ① 環境経営方針(行動指針)に建設現場における環境配慮を追記すること。 ② 環境経営計画に「超高圧水による研り業務」における環境配慮を盛り込むこと。 ③ 現行の取組みを維持しながら、目標達成に努力すること。 ④ 資格取得を積極的に推進すること。 ⑤ 環境経営目標には設定しないが、建設現場では環境に配慮した工事の施工、グリーン購入では積極的な購入に努めること。		

9. 次年度の環境経営目標

次年度(2024年度)の環境経営目標は、下表のとおりです。

- ・ 電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2021年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kwhを使用。
- ・ 各年度の目標値の%は、対基準年実績値比です。

項 目			単 位	基準年実績値 (2022年度)	目 標 値				
					(△ 向上 ・ ▽ 削減)				
					2023年度	2024年度	2025年度		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kwh	48,012	48,012	48,012	48,012		
			削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%		
	燃費改善	ガソリン車両		km/ℓ	13.08	13.15	13.15	13.15	
				向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%	
		軽油車両	全 体		km/ℓ	(4.01)	(4.03)	(4.03)	(4.03)
					向上率				
			バキューム車		km/ℓ	5.77	5.80	5.80	5.80
					向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
			強力吸引車		km/ℓ	2.15	2.16	2.16	2.16
					向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
			高圧洗浄車		km/ℓ	2.94	2.95	2.95	2.95
					向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
		他 作業車		km/ℓ	6.23	6.26	6.26	6.26	
				向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%	
		二酸化炭素総排出量			kg-CO2	299,361	-	-	-
水道使用量の削減			全 体		m ³	(560.5)	(560.5)	(560.5)	
					削減率				
			事 務 所		m ³	258.3	258.3	258.3	258.3
					削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%
			作 業 用		m ³	302.2	302.2	302.2	302.2
					削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進			再資源化率	61.2	61.7	62.2	62.7		
			%		△ 0.5%	△ 1.0%	△ 1.5%		
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進			再資源化率	61.2	61.7	62.2	62.7		
			%		△ 0.5%	△ 1.0%	△ 1.5%		
一般廃棄物(可燃物)の排出量の削減			kg	1,483	1,483	1,483	1,483		
			削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%		
資格取得の推進			取得者数	5	3	3	3		
			人						

- 注) 1. 化学物質は自らの判断で削減できないため、目標設定はせず、適正使用及び管理に努める。
2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。
3. 二酸化炭素総排出量は灯油・LPGを含む。
4. 建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、自社排出産業廃棄物として再資源化に取り組む。
5. 建設現場については目標設定せず、環境に配慮した工事の施工に努める。
6. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に努める。
7. 基準実績値とは、2022年度(6月～翌年5月)である。

10. 次年度の環境経営計画

次年度(2024年度)の環境経営計画は、本年度(2023年度)の同計画を継続して実施します。
また、これに加え代表者による全体の評価と見直しの結果、以下の5点の指示がありました。
その実現に向け、計画に基づいて活動を進めます。

- ① 環境経営方針(行動指針)に建設現場における環境配慮を追記すること。
- ② 環境経営計画に「超高压水による研り業務」における環境配慮を盛り込むこと。
- ③ 現行の取組みを維持しながら、目標達成に努力すること。
- ④ 資格取得を積極的に推進すること。
- ⑤ 環境経営目標には設定しないが、建設現場では環境に配慮した工事の施工、グリーン購入では積極的な購入に努めること。

部門名：総務部門

項目	環境経営目標	環境経営計画	時 期	責任者
活動の管理		エコ安全ドライブの周知	8月	本間
		運転記録簿の管理	通年	
		安全運転教育の実施	8月	
		安全運転管理者講習会の受講	7月	
二酸化炭素の削減	電力使用量の削減	空調設定温度:夏季/冬季 28℃以上/20℃以下	冷暖房 時 期	佐藤 (亜)
		昼休み、残業時、外出時など不要照明のこまめな消灯	通年	
		外出時などパソコンのモニター電源OFF	通年	
		照明器具見直し (取り外し、人感型化、高効率化、LED化など)	通年	
	灯油使用量の削減	暖房温度設定20℃以下	暖 房 時 期	曾根
	LPガス使用量の削減	湯沸し器の使用節約	通年	
水道使用量の削減		蛇口への節水シールの貼付	通年	斎藤 (裕)
		手洗い水使用の無駄の排除	通年	
		水漏れがないことを定期的に確認する。	通年	
一般廃棄物(可燃物)の排出量の削減と再資源化の促進		両面コピーの徹底(片面コピー済の裏面使用)	通年	宮部
		その他紙の分別再資源化の徹底	通年	
		分別による排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・古紙・ダンボール・ペットボトル)	通年	
グリーン購入の推進		グリーン商品の積極的な購入	通年	中野 (夏)

部門名：管理部門

項目	環境経営目標		環境経営計画	時 期	責任者
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブ の実践 ガソリン使用車両 の燃費改善 軽油使用車両 の燃費改善	エコ安全ドライブ の実践	急発進、急加速を避ける。	通年	吉川
			ふんわりアクセルを心掛ける。	通年	
			シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	通年	
			一定速度の走行をする。	通年	
			経済速度での走行をする。	通年	
			不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
			過度な空調の使い方をしない。	通年	
	日常整備	タイヤ圧を適正に保つ	通年	遠藤	
		エンジンオイルは適正に管理する。	通年		
	作業管理	営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択	通年	阿部	
		運転記録簿の記帳	通年		
水道使用量の削減			蛇口への節水シールの貼付	通年	長谷川
			手洗い水使用の無駄の排除	通年	
			洗車ホースへのストッパーの設置と使用	通年	
			水漏れがないことを定期的に確認する。	通年	
			積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	通年	
廃棄物（一般・産廃）の排出量の削減と再資源化の促進			分別による排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・廃プラ・ダンボール・ペットボトル)	通年	藤井
化学物質の適正使用及び管理			購入量のチェックと毎月 末の棚卸	通年	仲村
無人航空機による農薬散布業務における環境への配慮			計画的な散布と農薬の適正使用により、土壌や水質の保全に努める	散 布 時 期	大滝
建設現場における環境への配慮			省エネ運転、低騒音、低振動型建設機械の使用に努める。	通年	佐藤(潤)
			建設発生土の場内再利用、再生土の利用に努める。	通年	大倉
			廃棄物は分別し、廃棄物の排出量の削減と再資源化に努める。(金属・廃プラ・陶器・ガラス・ダンボール・木くず・紙くず・石膏ボード)	通年	奥村
資格取得の推進			積極的な資格取得の推進に努める。	通年	大沼

部門名：環境整備部門

項目	環境経営目標		環境経営計画	時 期	責任者
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブ の実践 ガソリン使用車両 の燃費改善 軽油使用車両 の燃費改善	エコ安全ドライブ の実践	急発進、急加速を避ける。	通年	中野 (太)
			ふんわりアクセルを心掛ける。	通年	
			シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	通年	
			一定速度の走行をする。	通年	
			経済速度での走行をする。	通年	
			不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
			過度な空調の使い方をしない。	通年	
	日常整備	タイヤ圧を適正に保つ	通年	小林 (慎)	
		エンジンオイルは適正に管理する。	通年		
		ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	通年		
	作業管理	営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択	通年	大江 (亮)	
		運転記録簿の記帳	通年		
水道使用量の削減			蛇口への節水シールの貼付	通年	藤間
			手洗い水使用の無駄の排除	通年	
			洗車ホースへのストッパーの設置と使用	通年	
			水漏れがないことを定期的に確認する。	通年	
			積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	通年	
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進			排出事業者に対して処理委託先について、再資源化を行う業者を推奨することに努める。	通年	渡部
廃棄物の排出量の削減と再資源化の促進			分別による排出量の削減と排出量の削減と 再資源化に努める。(金属・廃プラ・ダンボール・木くず)	通年	小池
超高圧水による研り業務における環境への配慮			ポンプユニットの省エネ運転に努める。	通年	石坂
			事前の養生等により、研りガラや濁水の飛散・流出の防止に努める。	通年	
資格取得の推進			積極的な資格取得の推進に努める。	通年	諏訪